

ハイチで友達作る

サッカー交流姉妹出発

サッカーによる交流を通じて、大地震で被災したハイチの子どもをケアしようとして、国際医療NGO「AMDA(アムダ)」(本部・岡山市)の菅波茂代表ら3人と、新庄村立新庄中3年の新家夢紬さん(15)、妹の1年百合絵さん(13)が16日朝、親善試合を行う隣国のドミニカ共和国に向かうため、JR岡山駅から新幹線で出発した。同日、成田

空港からたち、ニューヨーク経由でドミニカの首都サントドミンゴに向かう。日本からは、ほかに広島県と大阪府の中高生16人も参加。現地時間の18、19両日に、ハイチやドミニカの同年代の子ども数十人で、3国混合チームを作るなど

して親善試合をする。ドミニカで国際協力機構(JICA)の活動を見学するなどとして、25日に帰国する予定だ。

出発にあたり、新家さん姉妹は「言葉が通じなくても、スポーツは国境を越えて楽しめる」と話し、見送りに来た父・道正さん(46)と母・紀子(43)は「子ども同士で積極的にふれあってきてほしい」と期待した。

姉妹は、桜の花びら入りのしおりをハイチとドミニカの子どもにプレゼントし、こまなど伝統的な日本の遊びも紹介する。



新幹線の車内から手を振る新家夢紬さん(左)と百合絵さん。中央は菅波代表(JR岡山駅で)